

法遍寺 から大切な 皆様へ

2021年11月1日

日蓮正宗 年間方針

宗祖日蓮大聖人
御聖誕800年の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

人材育成と折伏実践

年間実践テーマ

① 日々勤行・唱題の実践

功德の源泉

一家和樂の信心

② 折伏実践こそ最善の報恩行

御命題達成

誓願成就

③ 寺院参詣と登山で人材育成

無始の罪障消滅

一生成仏

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(TEL:0561-54-9226)

相談無料



2021年10月10日の御報恩御講の様子

慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日頭上人が開基となつて、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人様の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ

あらゆる分野で「師匠」がある。大聖人は「たとえ父母が子を生み、その子に眼と耳が備わっていても、物を教える師匠がいなければ、それは畜生の眼や耳と同じとなる」(御書1233頁 趣意)と仰せである。仏法が説く我々の十界の生命には畜生界が存在する。愚痴と悪口が多い人、五欲(欲の基本)が盛んな人は、来世は畜生界に生まれると説く。人界に具わる畜生界は、理性がなく、倫理・道徳を弁えず、本能的欲求の赴くままの生命である。弱きをいじめ、むさぼり、人をねたみそねみ、苦しみさいなむ。自分中心にして施しも慈悲もない境界である。我々は日蓮大聖人という絶対の師匠をもつ。成仏の道を歩める身の福德に歓喜を燃やし、さらにはこの仏法を信じ得ない人々を勇氣と愛情をもって折伏していくことが、最も人らしい所為と心得て励んでまいろう。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ(創価学会破門の経緯を知らない方へ その15)

前号に続き、昭和53年11月7日、北条理事長(当時)は「第一に、学会のここ数年の指導、進み方、教学の展開のなかに、正宗の信徒団体としての基本がおろそかになっていたこと、第二に、昨年のような学会の行き方は行き過ぎがあったこと、以上の二点を私ども学会は、特に我々執行部は、深く反省するものであります」と率直に反省の意を示した。続いて辻副会長は「第一に、戒壇の大御本尊根本の信心に立ち、総本山大石寺こそ、信仰の根本道場であることを、ふたたび原点に戻って確認したいのであります。第二には、唯授一人、血脈付法の猥下のご指南に従い、正宗の法義を尊重してまいりたいと思います。第三に、(趣意)会長への心情を表すにおいて行き過ぎた表現は、今後避けなければならない」と帰依の確認と反省の意を述べた。

(次回池田氏の反省と会長勇退)

③ 正しい仏教への信仰を知らない方へ(引導を渡すについて)

今の時代、「引導を渡す」というと、「縁を切る」「命が終わる宣告」「最後通牒」の意味で使われる。本来の意味は、「先に立って導く」という意味で、人生の道に迷っている人々を仏道に教え導くことである。法華経方便品には「無数方便。引導衆生」とある。仏教が日本に伝わり、死者を葬る際、僧が棺の前で経や法を説き、死者が迷うことなく悟りを開かしめることを「引導を渡す」と言うようになった。今、本来の意味に照らし、何による引導、つまり何を師匠とし生きるべきかを考えなければならない。「鰯の頭も信心から」でよいか。宗教には千差万別、淫祀邪教のたぐいから仏の深遠広大な教えまである。仏の慈悲を説く「経」には方便もあれば本意たる真実の経もある。正しい因果を説く法華経の教理を知り、尊厳たる人生が引導されることを祈るものである。